

憲法擁護
核兵器廃絶
狭山闘争勝利

■ 2011年9月号 月1回発行 105号

■ 発行所：東京都港区芝浦3丁目2番22田町交通ビル
東京平和運動センター

■ 発行人：本橋 益男 TEL・FAX 03-5443-4110

東京平和運動センター

ニュース

NEWS



9.19 「さようなら原発全国集会」に60,000人が結集
(明治公園)

目 次	
さようなら原発 1000 万人アクションの取り組み	2
9.19 さようなら原発集会	3
中学校教科書採択をふりかえって	6
活動日誌・今後の日程	8

「さようなら原発60000人集会」の成功 を、脱原発1000万人署名の達成につ なげていこう

9月19日、明治公演で開催された、「さようなら原発5万人集会」は、60,000人の参加者で埋め尽くされました。開会冒頭で、呼びかけ人の一人、鎌田慧さんは「5万人集会は成功した」と宣言、「この集会を出発点に脱原発1000万人署名を突きつけましょう」と訴えました。集会後のデモ行進は3コースに分かれ、なんと4時間以上かけて最後の部隊が到着するという歴史的なものとなりました。集会の成功を持続的な運動につなげ、日本のエネルギー政策の大転換を実現させていかなければなりません。

菅首相に変わって誕生した野田佳彦首相は、これまでの発言（対米重視・改憲・戦争責任）から、警戒を強める必要があると同時に、厳しい眼で監視と働きかけを強めていく必要があります。原発問題についてもすでに再開を促す発言を行っており、国連における演説もこれまでの原子力政策の総括がまったくされない中で、原発維持と国際市場への展開を指向するものとなっています。原発災害のさなかで苦しむ被害者、復旧に見込みがまったく立たない中の発言に強く抗議するものです。

また、沖縄基地問題では日米合意を尊重し、辺野古新基地建設に向けて、沖縄県民を説得する姿勢を改めて表明しました。この間の南沙諸島周辺での中国の動向をめぐる緊張関係の中で、昨年策定された「防衛計画の大綱」を実践に移す動きも顕著になっています。沖縄での自衛隊増強を先取りするかのように、海上自衛隊掃海艇の石垣島入港、航空自衛隊百里基地所属のF-15戦闘機などの那覇基地移転訓練なども進められてきました。

本年は、中学校教科書の採択が全国で行われました。侵略戦争を美化し、日本国憲法の理念を否定する「つくる会」系教科書の採択が、一

部の強引な手法の中で進められてきており、これを許さない取り組みが大きな課題となりました。残念ながら拡大を許す結果となりましたが、各地の闘いを改めて検証し、次回に向けての準備を進める必要があります。沖縄八重山地区では、現在も取り組みが継続しています。教育の自治という基本にまで、根幹を揺るがす事態となっています。地元紙は連日トップ記事で動向を報道していますが、東京ではほとんど伝えられていません。文科省の指導などに発展した課題にしっかりとした目を向けていかなければなりません。

電力各社の膨大な広告宣伝費とメディアとの関係はすでに多くが語られています。マスメディアによる世論誘導と大衆蔑視の権力的構造は許すことができません。先般の鉢呂経済産業大臣の「失言」と辞任はその一角とも言えるものです。確かにその発言の軽率さと生活者サイドに身をおかない内容は批判されるべきです。しかし、「死の町」と化している事実を正確に捉えず、隠蔽とごまかしで国民を欺くことはできません。事実を事実として表現したことが、「原子力ムラ」の怒りを買ったとすれば、本来が報道すべきことは何だったのでしょうか。「放射能をつけてやる」発言に至っては、メディアの恣意性を感じるものは少なくないはずです。今、一部の地方紙ががんばっている姿を散見します。メディアのあり方を変えなければなりません。

「9.19 さようなら原発集会」は大きな成功をおさめました。3.11以降、世の中は大震災と原発事故に大きな関心が集中しています。わたしたちの運動もともとすると、その傾向に流されているかもしれません。しかし、平和・人権・環境をめぐる課題は、確実に動いています。

11月4～6日には山形市で憲法理念をめざす第48回大会（護憲大会）」が開催されます。1000万署名の取り組みとともに、大会の成功を期待します。

「9. 19 さようなら原発集会」

明治公園に60,000人が結集

まだ暑い日差しの残る9月19日、最寄の千駄ヶ谷駅から明治公園に続く道筋は、午前11時頃には、集会参加者たちの人の列が繋がっていました。

午後1時半開会の「さようなら原発5万人集会」はそんな熱気に包まれて、1時間前にはほぼ会場のコンクリート面は埋め尽くされ、周辺の道路、公園へと拡大しつつありました。千駄ヶ谷駅で電車から降りられない、駅から外に出られないといった状況も生まれていました。

福島から駆けつける予定の700名を超える部隊も交通事情でなかなか会場に到着できず、用意されたスペースが他の参加者で侵食されようとしていました。

午後1時「ダッダッダー脱原発」の声が会場に鳴り響く。「制服向上委員会」女の子グループの勢いのある歌声に会場から大きな手拍子。

午後1時半、司会の紹介で鎌田慧さん(呼びかけ人)が開会の挨拶。「5万人集会は成功した」と宣言、「この集会を出発点に脱原発1000万人署名を突きつけましょう」「野田首相はこれから国連に行って、原発は安全性を高めて再開していくと演説すると、発表しています。しかし安全性と信頼性は、既に破たんしています。それでもなおかつ、再開するというのは、人民に対する敵対であります。きょうの集会を力強く行うことによって、救済運動も進めていきたいと思います。原発から脱する、脱原発運動は、文化革命です。意識を変えていく運動でもあります。皆さん、核に依存して生きることは、人類は絶対にできません。」と力強く訴えました。

つづいて、呼びかけ人から大江健三郎さん、落合恵子さん、澤地久枝さんが訴え、海外ゲストとしてF o Eドイツ代表のフーベルト・ヴァイガーさん、ゲストで俳優の山本太郎さん、最後に福島の地元から、「ヒロアクション福島原発40周年

実行委員会」の武藤類子さんが、厳しい現実と将来に向かった決意を力強く訴えました。

紙面の都合上、大江健三郎さんと武藤類子さんの発言を次ページに全文掲載いたします。



集会終了後、3コースに分かれてデモ行進。原水禁グループは原宿から代々木公園B地区に向かって行進しました。福島を先頭に各県平和フォーラム(運動センター)、各労働組合がその後に続きました。先頭のスタートが2時45分頃、最後の自治労東京の部隊が会場を出たのは6時近く、すべてのデモが終了したのは6時半過ぎという大イベントとなりました。参加者の皆さんお疲れ様でした。

1000万人署名 街頭宣伝(9.9新橋駅前)

東京平和運動センターは、9月9日6時から新橋駅駅前で、1000万人署名活動を行いました

当日は、東京地公労中南地協が予定していた行動に、参加する形で実施。各構成組織や個人合わせて約100名が行動に参加しました。

一時間ほどの行動でしたが、多くの通行人が関心を示し、あっという間に、101名の署名を集めました。次回は10月14日高田馬場駅前を予定(6:00)



**集会当日発言のうち、大江健三郎さんと福島
の地元から武藤類子さんの発言を前文掲載します。
(記録)原水禁国民会議**

大江健三郎さん（呼びかけ人）

二つの文書を引いてお話します。第一は、私の先生の渡辺一夫さんの文書です。「『狂気』なしでは偉大な事業はなしとげられない、と申す人々



もおられます。それは、『うそ』だと思います。『狂気』によってなされた事業は、必ず荒廃と犠牲を伴います。真に偉大な事業は、『狂気』に捕らえられやすい人間であることを人一倍自覚した人間的な人間によって、地

道になされるものです」。

この文書はいま、次のように読み直されうでしょう。

「原発の電気エネルギーなしでは、偉大な事業は成し遂げられないと申す人々もおられます。それは『うそ』だと思います。原子力によるエネルギーは、必ず荒廃と犠牲を伴います」。

私が引用します第二の文書は、新聞に載っていたものであります。原子力計画をやめていたイタリアが、それを再開するかどうか国民投票を行いました。反対が九割を占めました。それに対して、日本の自民党の幹事長が、こう語ったそうであります。

「あれだけ大きな事故があったので、集団ヒステリー状態になるのは心情として分かる」。

偉そうなことを言うものです。もともとイタリアで原子力計画が一旦、停止したのは、二五年前のことです。チェルノブイリ事故がきっかけでした。それから長く考え続けられた上で再開するかどうかを、国民投票で決めることになったのです。その段階で、福島の事故が起こったのです。

いまの自民党幹事長の談話の締めくくりはこうです。

「反原発というのは簡単だが、生活をどうする

のかということに立ち返った時、国民投票で九割が原発反対だから、やめましょうという簡単な問題ではない」と幹事長は言ったのです。

原発の事故が、簡単な問題であるはずはありません。福島の放射性物質で汚染された広大な面積の土地を、どのように剥ぎとるか、どう始末するのか、既に内部被ばくしている大きい数の子どもたちの健康をどう管理するのか。

いまははっきりしていることは、こうです。イタリアではもう決して、人間の命が原発によって奪われることはない。しかし私たち日本人は、これからさらに原発の事故を恐れなければならないということです。私たちは、それに抵抗する意思を持っている。その意思を、想像力を持たない政党の幹部や、経団連の実力者たちに思い知らせる必要があります。

そのために、私たちに何ができるのか。私たちには、この民主主義の集会、市民のデモしかないのであります。しっかりやりましょう。

**武藤類子さん（ハイロアクション福島原発
40周年実行委員会）**

初めに申し上げたいことがあります。三・一一からの大変な毎日を、命を守るために、あらゆることに取り組んできた皆さん一人一人を、深く尊敬いたします。それから、福島県民に温かい手を差し伸べ、つながり、様々な支援をしてくださった方々にお礼を申し上げます。ありがとうございます。

そして、この事故によって、大きな荷物を背負わせることになってしまった、子どもたち、若い人たちに、このような現実を作ってしまった世代として、心から謝りたいと思います。本当にごめんなさい。

さて、皆さん。福島はとても美しいところです。東に紺碧の太平洋を望む浜通り。モモ・梨・リンゴと果物の宝庫の中通り。猪苗代湖と磐梯山の周りに黄金色の稲穂が垂れる会津平野。その向こうを、深い山々が縁取っています。山は青く、水は清らかな、私たちの故郷です。

三・一一原発事故を境に、その風景に、目には見えない放射能が降り注ぎ、私たちは被ばく者と

なりました。大混乱の中で、私たちには様々なことが起こりました。すばやく張り巡らされた安全キャンペーンと不安の狭間で、引き裂かれていく人と人とのつながり。地域で、職場で、学校で、家庭の中で、どれだけの人が悩み、悲しんだことでしょう。

毎日、毎日、否応なく迫られる決断。逃げる、逃げない。食べる、食べない。子どもにマスクをさせる、させない。洗濯物を外に干す、干さない。畑を耕す、耕さない。何かにももの申す、黙る。様々な苦渋の選択がありました。

そしていま、半年という月日の中で、次第に鮮明になってきたことは、事実は隠されるのだ、国は国民を守らないのだ、事故は未だに終わらないのだ、福島県民は核の実験材料にされるのだ、莫大な放射能のゴミは残るのだ、大きな犠牲の上になお原発を推進しようとする勢力があるのだ、私たちは捨てられたのだ——。私たちは疲れと、やりきれない悲しみに、深いため息をつきます。

でも口をついてくる言葉は、私たちを馬鹿にするな、私たちの命を奪うな——です。福島県民はいま、怒りと悲しみの中から、静かに立ち上がっています。子どもたちを守ろうと、母親が、父親が、おじいちゃんが、おばあちゃんが。自分たちの未来を奪われまいと若い世代が。大量の被爆に晒されながら事故処理に携わる原発従事者を助けようと、労働者たちが。土地を汚された絶望の中から、農民が。放射能による新たな差別と分断を生むまいと、障がいを持った人々が。一人一人の市民が、国と東電の責任を問い続けています。そして、原発はもういらないと、声を上げています。

私たちは静かに怒りを燃やす、東北の鬼です。私たち福島県民は、故郷を離れる者も、福島の土地に留まり生きる者も、苦悩と責任と希望を分かち合い、支え合って生きていこうと思っています。私たちとつながってください。私たちが起こしているアクションに、注目してください。政府交渉、疎開、裁判、避難、保養、除染、測定、原発と放射能についての学び。そしてどこにでも出かけて、福島を語ります。きょうは、遠くニューヨークでスピーチをしている仲間もいます。思いつく限りの、あらゆることに取組んでいます。私たちを助けてください。どうか福島を忘れないでください。



もう一つ、お話ししたいことがあります。それは、私たち自身の生き方、暮らし方です。

私たちは何気なく差し込むコンセンソの向こう側を想像しなければなりません。差別と犠牲の上に成り立っていることに、思いをはせなければなりません。原発は、その向こうにあるのです。

人類は、地球に生きる、ただ一種類の生き物にすぎません。自らの種族の未来を奪う生き物が、他にいるのでしょうか。私は、この地球という美しい星と調和した、まっとうな生き物として生きたいです。ささやかでも、エネルギーを大事に使い、工夫に満ちた、豊かで創造的な暮らしを紡いでいきたいです。どうしたら原発と対極にある新しい世界を作っていけるのか。だれにも明確な答えは分かりません。

でき得ることは、誰かが決めたことに従うのではなく、一人一人が本当に、本当に、本気で、自分の頭で考え、確かに目を見開き、自分ができることを決断し、行動することだと思うのです。一人一人に、その力があることを思い出しましょう。

私たちは誰でも、変わる勇気を持っています。奪われてきた自信を取り戻しましょう。原発をなお進めようとする力が垂直にそびえる壁ならば、限りなく横に広がりつながり続けていくことが、私たちの力です。たったいま、隣にいる人と、そっと手をつないでみてください。見つめ合い、お互いの辛さを聞きあいましょう。涙と怒りを許しあいましょう。いまつないでいる、その手の温もりを、日本中に、世界中に広げていきましょう。

私たち一人一人の、背負っていかなければならない荷物が、途方もなく重く、道のりがどんなに過酷であっても、目をそらさずに支えあり、軽やかに、朗らかに、生き延びていきましょう。

ありがとうございました。

杉並区での採択を阻止！ 大田区、武蔵村山市などで「つくる会系」 教科書が採択 — 「中学校教科書採択」をふりかえって —

暑い夏が終わりました。昨年の小学校に引き続き、今年は改悪された教育基本法に基づく「新学習指導要領」の下で、中学校の教科書採択が行われました。今年の最大の焦点は、8年間「つくる会系」の教科書が使われている杉並区で何としても「つくる会系」教科書の採択を許さないこと。そして、それ以外の地区での採択阻止でした。

10数年前から、「新しい歴史教科書をつくる会」は、歴史を歪曲し日本国憲法を敵視する教科書を作り、扶桑社から出版してきました。2006年「つくる会」は内部対立から分裂し、「つくる会」は自由社から、分裂してできた「日本教育再生機構＝教科書改善の会」は育鵬社からそれぞれ教科書を発行することとなりました。どちらの教科書も、扶桑社版教科書を基にしているので、「天皇賛美」「戦争の美化と肯定」「安全神話に基づく原教推進」「日本国憲法敵視」などの内容は同じです。

全国的には、大田原市、東大阪市、藤沢市、横浜市、石垣市などで育鵬社版教科書が採択されました。横浜市の教科書採択は、前回まで18地区に分かれていましたが、2009年に横浜市教育委員会が採択を全市一括としたことで、全国最大の採択地区となりました。育鵬社は、歴史教科書の採択率が前回09年度の約6倍にあたる約3.8%、公民教科書も約12倍の約4.2%との推計値を発表しました。神奈川県では横浜市や藤沢市が採択した結果、県全体のシェアが4割以上と推計されます。東京の結果は、2005年、2009年と2度にわたって「つくる会系」教科書を採択してきた杉並区では、保護者・区民・組合等の粘り強い運動の結果、育鵬社版教科書の採択を阻止することができました。しかし、大田区、武蔵村山市の2地区において新たに「歴史的分野」「公民的分野」とともに「つくる会系」の教科書が採択されてしまいました。最低4年間、この地区の子どもたちはこの教科書を使用します。

大田区は、1984(昭和59)年8月15日に「平和都市宣言」を行い、世界の恒久平和と人類の繁栄

を願っています。また、中国北京朝陽区とは、1976(昭和51)年から交流が始まり、日中友好条約締結20周年を迎えた1998(平成10)年9月に友好都市となり、現在も交流活動を行っています。2010(平成22)年3月には「大田多文化共生推進プラン」も策定され、大田区に住む18,000人を超える外国人も「国際都市おおた」の町づくりに主体的に参画することを目標としています。このように、大田区では、人権尊重教育、平和教育、共生教育が推進されてきました。育鵬社の教科書を採択することは、この大田区の教育理念に反することになります。大田区では、大田教組や部落解放同盟などが、育鵬社版教科書の採択に強く抗議し、その撤回を求めています。

なぜ、このような結果になってしまったのか、私たちは今一度教科書採択に対するとりくみを振り返る必要があるでしょう。今回、各地区の教育委員会を傍聴して見えてきたものは、教育委員個人の考えで教科書が採択されてしまうという事です。「改正教育基本法と新学習指導要領の趣旨を一番反映した教科書」とする意見とともに、特に今回は「東日本大震災」以来の日本のながれ、家族、地域のつながり、絆の大切さが、大きく教育委員の心を動かし「つくる会系」教科書の採択につながったとも考えられます。私たちは日ごろから教育委員会を傍聴するなど、その動向をしっかりとらえ、今後の運動を構築していく必要があるでしょう。

今回採択された教科書は来年度から4年間使われます。4年後の採択を見据え、「つくる会系」教科書の問題点、間違いや不適切な記述・内容などについて、地域の人々や多くの教育委員に訴え、不適切な教科書を採択しないように働きかけるとりくみが今から必要です。

中学校教科書の採択の年を迎え、歴史歪曲、憲法敵視の「つくる会」系教科書を採択させない取り組みが、市民や日教組などを中心に闘われました。

沖縄・八重山地区では未だに決着がつかず、市闘いが続いています。琉球新聞など地元紙は連日大きく取り上げていますが、全国紙は無視を決め込んでいます。

本文は、9月5日時点で、東京を中心とした教科書採択の状況と課題を、東京教組・土井書記長にお願いしてまとめてもらったものです。

活動日誌

- 9月7日 常任幹事会
 9月8日 さようなら原発1000万人アクション呼びかけ人シンポ(18:30～日本青年館)
 9月9日 さようなら原発1000万署名行動(6:00 新橋駅前)
 9月11～19日 脱原発アクションウィーク
 9月19日 さようなら原発全国集会(明治公園)
 10月25日 原子力空母横須賀母港化抗議神奈川県集会(横須賀市)

今後の日程

- 09月25日 原子力空母横須賀母港化抗議神奈川県集会(横須賀市)
 10月02日 JCO 臨界事故12周年集会(茨城県)
 10月06日～07日 各都道府県組織・中央団体責任者会議(教育会館)
 11月04日～06日 震災から考える、「人間の安全保障」で「生命の尊厳」を一憲法理念の実現をめざす第48回大会(護憲大会)(山形市)

脱原発『さようなら原発』一千万署名

署名への協力をお願いします
 署名集約期間

- 9月10日 (第1次集約)
 12月20日 (中間集約)
 2月28日 (第2次集約)

駅頭署名活動

次回 10月14日(金) 高田馬場駅前
 午後6時より
 多数の参加をお願いします

震災から考える、「人間の安全保障」で「生命の尊厳」を一憲法理念の実現をめざす第48回大会(護憲大会)

11月04日～06(山形市)

メイン企画(シンポ)

11月4日(金) 14:30～17:00

ビッグウィング多目的集会展示場

特別提起 被災地・福島からの訴え

テーマ 震災から考える、『人間の安全保障』で『生命の尊厳』を

◎分科会 11月5日(土)

- ①地球環境－脱原発に向けて
- ②地方主権・市民政治－復興の礎を
- ③人権確立－生命の尊厳と被災者の人権
- ④教育と子どもの権利－被災・被曝問題
- ⑤歴史認識と戦後補償
- ⑥非核・平和・安全保障－震災と米軍・自衛隊
- ⑦憲法

申し込みは 東京平和運動センター
 締め切り 10月12日

編集後記

台風が猛威を振るった。被災地の皆さんにお見舞い申し上げたい。

秋の台風は、農業者にとって本当に辛いものと察する。一年かけて丹精こめた果実が一瞬にして失われることの辛さはいかなものか。

人類は自然と闘い、自然と共存してきた。

大災害の続く本年、つくづく、自然との共存のあり方を問う。共存の知恵は、永遠なる人類のテーマなのか。

暑い夏を終え、秋を迎えても、震災、原発事故から新しい光はなかなか見えてこない。諸課題は山積する。展望を切り開く、わたしたちの知恵と力の結集をめざしたい。